

RAIN-PIPE HOLDER

Patent Number: JP54006126
Publication date: 1979-01-18
Inventor(s): SATO HIDEO
Applicant(s): MATSUSHITA ELECTRIC WORKS LTD
Requested Patent: ☐ JP54006126
Application Number: JP19770072590 19770615
Priority Number(s):
IPC Classification: E04D13/06
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PURPOSE: To keep an expandable rain-pipe collapse-proof, by fitting a holder for supporting hard straight cylinders on both sides of a soft bellows.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

公開特許公報

昭54—6126

⑤Int. Cl.²
E 04 D 13/06

識別記号

⑥日本分類
65 B 1庁内整理番号
7238—2E

⑬公開 昭和54年(1979)1月18日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭雨樋保形具

門真市大字門真1048番地 松下
電工株式会社内

⑰特 願 昭52—72590

⑰出 願 人 松下電工株式会社

⑱出 願 昭52(1977)6月15日

門真市大字門真1048番地

⑲発 明 者 佐藤英郎

⑲代 理 人 弁理士 石田長七

明 細 書

1. 発明の名称

雨樋保形具

2. 特許請求の範囲

(1) 筒状の雨樋の軟質蛇腹部の上下両側の硬質直筒部を把持するための把持部を上下に持ち、全体が硬質材で形成された雨樋保形具。

3. 発明の詳細な説明

本発明は筒状の雨樋(1)の軟質蛇腹部(2)の上下両側の硬質直筒部(3)(3)を把持するための把持部(4)(4)を上下に持ち、全体が硬質材で形成された雨樋保形具に依り、その目的とするところは伸縮自在の雨樋を腰折れさせずに保形する雨樋保形具を提供するにある。

本発明を以下図示実施例に基いて詳説する。

雨樋(1)は笠樋、笠樋継手等の上下の円筒状の硬質直筒部(3)(3)とその間の伸縮可能な軟質蛇腹部(2)とを合成樹脂で一体に成形して得られたものであり、軟質蛇腹部(2)を伸縮させることにより全体の長さを施工場所の所要長さに調整すること

ができるものである。雨樋保形具(5)は硬質合成樹脂で形成したものであり、第1図のように一部に切欠部(6)の設けられた上下のリング状の把持部(4)(4)を縦の骨部(7)で連結した構成である。把持部(4)(4)間の間隔は雨樋(1)の軟質蛇腹部(2)のその伸長した状態での長さより充分大きくしてある。各把持部(4)の切欠部(6)の端部にはガイド(8)を設けてある。しかして両側の把持部(4)(4)を軟質蛇腹部(2)の上下両側の硬質直筒部(3)(3)に切欠部(6)(6)から夫々弾性的に嵌めて把持させることにより雨樋(1)に雨樋保形具(5)を取付け、骨部(7)で軟質蛇腹部(2)の腰折れを防止し、雨樋(1)を保形させるのである。

本発明雨樋保形具は叙上のように雨樋の軟質蛇腹部の上下両側の硬質直筒部を把持する把持部を上下に持ち、全体が硬質材で形成されたものであるから、上下の各々の把持部に雨樋の硬質直筒部を把持させることによりこの雨樋保形具の硬質性によつて雨樋の軟質蛇腹部の腰折れを防止することができ、雨樋を確実に保形することができるの

である。

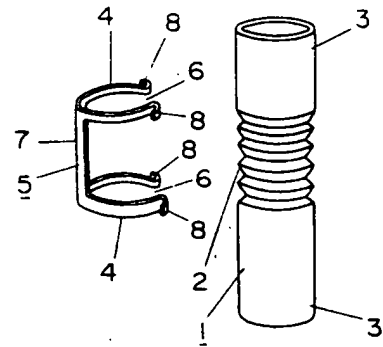
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例の兩端への取付け前の状態を示す斜視図、第2図は同上の兩端へ取付けた状態を示す斜視図である。

図中(1)は兩端、(2)は軟質蛇腹部、(3)は硬質直筒部、(4)は把持部である。

代理人 弁理士 石 田 長 七

第1図



第2図

